

発行者：ISACA 東京支部基準委員会 AI ガバナンスの基準研究グループ
(福田重遠、小林清志)

発行日：2025 年 2 月 15 日

題名：AI ガバナンスに関する基本的な考え方

前書き

今回、IT ガバナンスと AI ガバナンスの相違点を明示したうえで、AI ガバナンスに関する基本的な考え方をまとめました。本稿をまとめるにあたっては複数の LLM を活用し現在の AI ガバナンスの考え方をまとめたうえで、AI に関する専門性を有した有志にて内容検討し本考察をまとめました。

今後の AI の発展や各国の社会変化や規制に応じて AI ガバナンスに関する考え方が変化する可能性がある点を考慮したうえでご一読ください。

第 1 章 IT ガバナンスと AI ガバナンスの相違

1. はじめに

IT ガバナンスと AI ガバナンスの相違点を明確にすることで AI ガバナンスの特異性を明確にします。

2. IT ガバナンスの概要

IT ガバナンスは日本の経済産業省の定義によると、企業が IT システムを戦略的に活用し、その効果を最大化するための組織的な仕組みです。ステークホルダーのニーズに基づき、組織の価値を高めるための IT 戦略と方針の策定及びその実現のための活動とされています。主要な構成要素は以下の通りです。

- ・ 戦略と情報システムの整合性
- ・ 組織体制の確立
- ・ 業務内容の把握
- ・ コストの最適化
- ・ 運用体系の構築
- ・ ガイドラインの設定
- ・ リスク管理
- ・ システムの調達方法

3. AI ガバナンスの概要

AI ガバナンスは、経済産業省の定義によると、AI ガバナンスとは、人工知能（AI）の開発・利用に

において、倫理的・法的なガイドラインや規制を設けることで、AI 技術の適正な利用と社会的責任を確保する取り組みです。これには、AI の透明性、公正性、安全性、責任の所在などが含まれます。－

従来の IT ガバナンスとは異なり、AI 特有のリスク(誤った判断、差別、プライバシー侵害など)や倫理的な考慮が必要となります。AI ガバナンスは、これらのリスクを特定し、評価し、軽減するためのプロセスを含みます。

4. IT ガバナンスと AI ガバナンスの基本的な相違点

AI ガバナンスは、IT ガバナンスの枠組みの中で機能すると考えられています。AI システムは IT システムの一部として運用されることが多く、IT ガバナンスで確立されたリスク管理、コンプライアンス、セキュリティ対策などの仕組みを AI システムにも適用する必要があるためです。

基本的な観点の相違点は以下の通りです。

観点	IT ガバナンス	AI ガバナンス
主な目的	IT 投資の最適化とリスク管理	AI 技術の倫理的・責任ある利用
重点領域	システム運用と効率化	倫理的配慮と社会的影響
特徴的なリスク	システム障害、セキュリティ	バイアス、判断の透明性、誤った判断、差別

第 2 章以降では、IT ガバナンスと AI ガバナンスの考え方の相違を念頭においたうえで、AI ガバナンスの基本的な考え方や AI ガバナンスの策定方針の考え方について解説します。

第 2 章 AI ガバナンス原則の策定の考え方

1. はじめに

AI ガバナンス原則の構成要素の策定とその考慮点を明確化⁴にしたうえで、AI ガバナンスに関するベストプラクティス例を提示します。

2. AI ガバナンス原則の構成要素

生成 AI を用いて多様な情報を分析した結果、AI ガバナンス原則は、以下の要素から成り立つという結論に至りました。

- ① **人間中心主義:** AI 開発・利用において、常に人間の幸福と権利を最優先する。経済産業省の「人間中心の AI 社会原則」にも示されるように、倫理的な配慮が不可欠である。また、人間による監督も重要となる。
- ② **信頼性と安全性:** AI システムの安全性と信頼性を確保する。これは、システムの堅牢性、予測可能性、説明可能性などを含む。
- ③ **透明性と説明可能性:** AI アルゴリズムの動作と意思決定プロセスを明確にし、その結果を説明できる必要がある。IBM の原則にも含まれるように、ブラックボックス化を防ぎ、説明責任を

果たすための重要な要素である。AI の意思決定プロセスの追跡可能性は重要な視点で、今後、技術の進歩とともに説明可能性を高める方法論も発展する。

- ④ **公平性と倫理:** AI システムによる差別やバイアスを排除し、公平性を確保する。トレーニングデータの厳密な調査やバイアス検知・軽減技術の活用が不可欠となる。
- ⑤ **説明責任:** AI システムの運用に関する責任を明確化し、責任体制を構築する。重大な変化への対応やリスク管理体制の構築が重要となる。
- ⑥ **プライバシー保護:** AI システムの開発・利用における個人情報の適切な保護を確保する。データガバナンスと密接に関連する重要な原則である。
- ⑦ **国際協調と標準化:** 国際的なコンセンサスに基づく原則の策定と標準化が求められる。ISO/IEC JTC 1 SC 42 などの国際標準化活動や、OECD などの国際的なイニシアティブへの参加が重要となる。また、中国、米国、欧州それぞれで AI の捉え方が異なり、国家の政治的、経済的、文化的背景が大きく影響する。各国で開発する国産 AI の開発については、自国の価値観を反映させることも重要だが、同時にグローバルな相互運用性と倫理的な普遍性も考慮する必要がある。

3. 原則策定における考慮事項

AI ガバナンス原則の策定にあたっては、以下の点を考慮する必要があると考えます。

- ① **組織の規模と業種:** 企業規模や業種によって、AI の活用状況やリスク要因が異なるため、原則の内容も調整する必要がある。
- ② **AI システムの種類と用途:** 使用する AI システムの種類や用途に応じて、必要なガバナンスのレベルや重点事項が変化する。
- ③ **リスクアセスメント:** AI システム導入による潜在的なリスクを事前に評価し、適切なリスク軽減策を講じる必要がある。
- ④ **コンプライアンス:** 関連法規制や業界標準への準拠を確保する必要があり、以下の規制領域への検討が想定される。なお、各国の法規制等によりコンプライアンスの視点は異なる可能性がある。

<例示>

- プライバシーの侵害
- 他者知的財産権の権利侵害
- 人類に危害を与える兵器への使用
- データの公正な使用
- アルゴリズムによる差別の防止
- AI 開発における知的財産権の権利明確化
- サイバーセキュリティ
- 労働市場への影響
- 環境への配慮

⑤ **ステークホルダーとの連携:** 利害関係者（従業員、顧客、社会全体）とのコミュニ

⑤ **ケーションとその具体的な検討例は以下がその項目となる。また、ステークホルダーとの連携に当たっては、サプライチェーン視点も考慮に入れる必要がある。**

<例示>

- 従業員：定期的な研修、フィードバックメカニズム
- 顧客：透明性のある情報提供、苦情処理システムやフィードバックメカニズム等
- 政府：規制遵守、政策対話
- 取引先：倫理的、かつ安全は AI 利用の共通ガイドライン、フィードバックメカニズム
- 学术界：共同研究、技術検証

また、将来的な AI のテクノロジー面での発達も考慮し、AI のガバナンス原則は継続的な変更や追加の可能性があることも留意する必要があります。

4. AI ガバナンスの実践におけるベストプラクティス

AI ガバナンス原則の効果的な実践には、以下のベストプラクティス例が参考になります。ただし、すべての組織に最適なわけではなく、ビジネス特性や AI への業務依存度に応じて、取捨選択する必要があります。

- **ガバナンス体制の構築:** AI ガバナンス責任者、委員会などを設置し、責任と権限を明確にし、透明性の高い意思決定を確保する。独立した倫理委員会の設置がその例である。
- **多様な専門家の起用と継続的な教育活動:** AI ガバナンスを構築するために、多様な専門家を参画させ、従業員への AI に関する継続教育や啓発を行う。
- **目標設定と指標管理:** AI ガバナンスの明確な目標を設定し、達成状況をモニタリングする。
- **リスク管理フレームワークの導入:** AI リスク管理手法を導入し、リスクを特定・評価・軽減する。
- **倫理ガイドラインの策定と遵守:** 組織独自の AI 倫理ガイドラインを策定し、従業員への教育・啓発を行う。
- **データガバナンスとの統合:** データガバナンスと AI ガバナンスを統合的に管理する。
- **継続的なモニタリングと改善:** AI システムの運用状況を継続的にモニタリングし、必要に応じて原則やガバナンス体制を改善する。

※.マイクロソフト、Google および IBM は先進的な AI ガバナンス体制を構築している事例とされています。

第3章 まとめと今後

AIの発展に伴い、AIガバナンスの重要性は増大しています。特に生成AI等の新技術の登場により、より包括的なガバナンス体制の構築が求められています。また、AIガバナンスに関連してITガバナンスの重要性も相対的に高まっています。

AIガバナンス原則の策定と実践は、AI技術の安全で倫理的な活用に不可欠です。第1章で示したITガバナンスとの相違、第2章で示した原則、考慮事項、ベストプラクティス例を参考に、組織の状況に合わせた適切なAIガバナンス体制を構築することが重要です。また、AIガバナンスを継続的に改善・向上するには、国際標準とベストプラクティスを踏まえた包括的なアプローチを行い、定期的なガバナンス態勢のレビュー、リスクアセスメントの定期的な実施、倫理ガイドラインの遵守、関係者との連携、人材育成、技術革新への対応など、継続的な対応や努力も求められます。

ISACA国際本部でもAI Audit Toolkit[5]が2024年7月にリリースされ、今後、AI監査に関する資格等もリリースが予定されています。今後のISACAのAIに関するガバナンスや監査に関するリリースについてもご案内をしていきます。

また、本記事はISACA東京支部基準委員会のボランティアによりまとめられたもので、本記事に記載された情報は、収集時点での最善の努力をもって正確性を期しておりますが、その完全性や正確性について必ずしも保証するものではありません。本情報を利用するにあたり、自己の責任において判断していただくようお願いいたします。

以上

<引用>

利用AIモデル: Google Gemini シリーズ、Anthropic Claude シリーズ, Perplexity

[1] システム管理基準

<https://www.meti.go.jp/policy/netsecurity/sys-kansa/sys-kanri-2023.pdf>

[2] AI ガバナンス

https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/ai-governance/index.html

[3] AI 原則実践のためのガバナンス・ガイドライン Ver. 1.1

https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/ai_shakai_jisso/pdf/20220128_1.pdf

[4] デジタルガバナンス・コード

https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/investment/dgc/dgc.html

[5] AI Audit Toolkit

<https://store.isaca.org/s/store#/store/browse/detail/a2S4w000007kB9pEAE>